

日本福祉文化学会 中部東海ブロック通信 第12号

担当理事：〒425-0041 静岡県焼津市石津 751-1 平田 厚 Email: monogusa-tomy@theia.con.ne.jp

学会全国大会開催地、その後の「地方発福祉文化の創造」の細やかな歩み 「第13回静岡大会」そして、「第30回東海大会」への期待

第7期学会ブロック活動は、最後の2020年度、既に4か月が過ぎました。コロナ禍で、社会全体が「離れてつなぐ」「非対面的活動」等、新たな取り組みにそれぞれアイデアを出し合い、全力投球しているように感じます。「第30回学会全国大会東海大会」から、早や8か月が過ぎました。「学会大会」を一過性のイベントに終わらせることなく、いかにして「地方発福祉文化の創造」による地域づくりを継続していくかを念頭に置きながら取り組んだ「第13回静岡大会：富士山麓いのちと暮らしによりそう福祉文化の創造と推進」の今日までのプロセスを今回は紹介しながら、「第30回東海大会：名古屋発“福祉文化元年”を築く～今こそ、人を育てる、アートを創る～」のこれまでの取り組みについて紹介します。

1989.7学会設立後、6年目に「第11回学会現場セミナー」を静岡県で開催。その翌年に、セミナーに関わった若者層中心に「静岡福祉文化を考える会」(当時、男性39名、女性23名 計62名、現在、男性15名、女性6名 計21名)が誕生。活動6年目の2000年「第11回学会大会(仏教大大学)」において、2年後の「第13回全国大会は静岡県」開催が決定させました。2年後の学会大会をいかに実現するかを「静岡福祉文化を考える会」中心に、県内外に参加協力を呼びかけ早速、「実行委員会」(42名)を組織化しました。

静岡県なら「富士山」の麓。住民主体を語り合うなら行政や社協の協力のもと公共施設の開放をと、実に、今日でいう「協働」による開催実現に向けたルールが敷かれました。参画した実行委員の意欲的な取り組みにより、「第13回学会大会静岡大会プレイベント：富士山麓21世紀 福祉文化の今とこれから」(県民350名参加 写真参照)を前年度開催し、静岡県民への啓発を重視し、本大会につなげたプロセスがありました。



「静岡福祉文化を考える会」の誕生の経緯と同様、「学会大会」終了後に、しっかりと開催地元に「福祉文化」が根付くように、「実行委員会」では、毎回「地方発福祉文化の創造の推進」の議論を積み重ねてきました。

大会終了後は、県民への啓発活動として「静岡県福祉文化研究セミナー」として継続開催していく申し合わせがあり、「第13回静岡大会」に「第1回静岡県福祉文化研究セミナー」を加え、広く、静岡県民の参加を呼びかけました。今日では、より多くの市民が研修に参加してもらえるか、苦勞の多い課題が山積していますが、あの時代(18年前)は、県民自らが、積極的に学び合う地域環境があったように感じます。(写真参照)



●年代や世代を超えて、語ろう！創ろう！“豊かな地域で生活会議”

第19回 静岡県福祉文化研究セミナー/日本福祉文化学会中部東海ブロック研修会 ホッとする、ご近所のささえあいは誰が創る？

今回のセミナーでは「ご近所福祉（近助）」をキーワードに、市民と共に、生活圏域の地域環境について語り合う。特に、「コロナ禍」を契機に、これまでのご近所福祉を検証し、これからのご近所福祉のあり方を探るとともに、いかにして、住民主体を基盤にした「協働」による地域ぐるみのコミュニティ組織を維持することが出来るか意見を出し合う。

本会の活動基調である「専門性と市民性を融合した活動」「広く地域課題を共有した地域総合型活動」「新たな地域課題解決に向けた活動」をもとに、情報の共有、広報啓発、人的交流、プロセスを重視し、人々が支え合って暮らし合う生活圏域における「地域課題」を掘り起こし、課題提起をする取り組みを、「生活会議」と置き換え、今後の実践活動に活かす。

1. 着眼項目

- (1) 「いま、なぜ、福祉文化か」その原点を学ぶ場
- (2) 「静岡発 福祉文化の創造 19年のセミナーの道程」を学ぶ場
- (3) 「ご近所福祉その意識と実態調査研究活動」から学ぶ場
- (4) 「コロナ禍後のご近所福祉」考える場
- (5) 世代を超えて、楽しく地域づくりを語り合う環境（地域総合型学習）を実践する場

2. 主 催 静岡福祉文化を考える会

3. 日 時 令和2年10月25日（日）13:00～16:30

4. 会 場 静岡市清水区追分3丁目5-17「寄ってっ亭」（TEL: 054-367-2878）

* 会場には、公共交通機関等を利用してお越しください。

5. プログラム

- 13:00 開会セレモニー
- 13:10 アイスブレイク「ご近所福祉」を演出します
- 13:40 基調報告 その1「静岡発 福祉文化研究セミナーの19年を探る」
- 14:00 基調報告 その2「これまでの‘ご近所福祉その意識と実態調査結果’とこれから」
—誰がご近所福祉を創るか、気になるこの先—
- 14:20 円卓トーク「ご近所福祉に関わって一言」
- 15:10 休 憩
- 15:20 ワークショップ「ホッとする、こんなご近所福祉をめざして」
- 16:10 全体会 閉会セレモニー

●問い合わせ（電話、FAX、等で下記まで）

〒425-0041 焼津市石津 751-1 静岡福祉文化を考える会 代表 平田 厚

TEL & FAX: 054-624-1924 携帯: 090-4861-4547 Email: monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp

※詳細は、学会HP「ブロック活動・中部東海ブロック」、または「静岡福祉文化を考える会」ブログで確認して下さい。

これまでは、「第13回静岡大会」開催後、開催地元での18年間のプロセスを紹介しました。

次に、このたび、令和元年11月30日・12月1日に開催しました「第30回学会東海大会」から、今後どのような展開が期待されるか、現在までの経過を踏まえて報告します。

「第30回東海大会」は、今後のブロック活動に期待をして、「第1回中部東海ブロック大会」を付記して開催しました。意義ある「第30回東海大会」となりました成果を、これからの中部東海ブロック活動の活性化に向けて、どのように「地方発 福祉文化の創造」につなげていくか、2月15日に開催しました「第6回実行委員会」（総括実行委員会）において協議をいたしました。

開催地元の学会会員の熱い思いで成果をあげた「第30回東海大会・第1回中部東海ブロック大会」。

今回の大会を契機に、さらに、「名古屋発福祉文化元年」を発展させていただくことを強く受け止めていただき、引き続き「第2回中部東海ブロック大会」は、名古屋市を会場に開催実現に向けた協議をしていただきました。延べ6回にわたり開催してきました学会大会の「実行委員会」では、その都度、参画された委員の熱い思いが、当日の結晶につながりましたが、第30回学会東海大会における今後に向けた課題も紹介されました。特に、「一般市民に十分、“福祉文化”を伝えきれなかった」「学会会員自らが、しっかりと市民に“福祉文化”の啓発呼び掛けの努力をしていくことが必要」等の貴重な意見が出されました。

こうした意見をもとに、「第2回ブロック大会」に向けて、一般市民と共に「福祉文化を創造」する、公開型とし、併せて「東海福祉文化現場セミナー」(仮称)としてこれから準備に取りかかる方向性を確認しました。

この時点で、第31回学会大会全国大会沖縄大会(2020年11月28日(土)・29日(日))が予定されていたため、地元の事業と連携し、下記の開催日時と会場を予定されました。

- **開催日時：2020(令和2)年9月5日(土) 10:00~16:00(6H)**
- **開催会場：八事山興正寺(名古屋市昭和区八事本町78)**

しかしながら、3月に入り今日まで、「コロナ禍」により、社会の動きが一変しています。

県域を超えた移動の自粛がさらに強化されている中、愛知県域における各種事業の延期・中止等が打ち出されていることを確認し、上記9月5日開催予定は延期し、改めて、現時点で、下記の日程と会場を基に、これまでの協議を基に、開催予定を確認しました。 **※詳細がわかりましたら、通信第13号でお知らせします。**

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">■ 開催日時：2020(令和2)年12月5日(土)■ 開催会場：八事山興正寺(名古屋市昭和区八事本町78) |
|--|

第7期最終の学会中部東海ブロック活動は、ここまで、計画に基づき、「会員アンケート実施」「ブロック大会を当面静岡福祉文化を考える会福祉文化研究セミナーと連動して取り組む」「ブロック活動通信発行」「最終活動総括・引継ぎ」として展開します。あと8か月間、この厳しい社会から“新たな活動”を生み出したい

●中部東海ブロック会員アンケート結果から、次期ブロック活動につなぐ

去る6月2日に、第8期ブロック活動に向けた「第7期ブロック活動における第2回会員アンケート(32名)」を実施いたしました。提出期日までに、15%の回答をいただきましたので、概要を報告します。

1. 第8期(2021-2023)中部東海ブロック活動への期待と具体的な提案・ご意見

- ・一般市民向け「福祉文化」啓発企画
- ・厳しい社会情勢の中、地道に福祉文化実践活動に取り組んでいくこと
- ・これまでの活動を検証し、地域社会が求めている活動を積極的に展開していくこと
- ・活動に必要な社会資源を開拓し、さまざまな領域との「協働」的取り組みに努める
- ・地域社会が今求めている、身近な生活課題解決に向けた「生活支援」を取り上げる

2. 中部東海ブロック活動の更なる拡大について

- ・長野県の会員呼び掛けに向けた「研修会」「講演会」の開催
- ・長野県内の知人等に働きかけている
- ・現在の会員一人一人が「学会の魅力」をもって、地域社会に向けて、地道に福祉文化活動への誘いに努める
- ・まずは、会員相互の信頼関係の構築による地域社会への積極的な働きかけ

3. 中部東海ブロックの活動活性化について

- ・「ブロック大会」の継続的開催を実現し、少人数でも関係づくりに努める
- ・偏りのない、幅広い分野の福祉活動の許容する
- ・現在、社会全体が活用している「オンライン」による連携の導入を具体化していく
- ・ブロック内5県のそれぞれの県単位で、会員相互の意見交換会の機会をもつ

◇日本福祉文化学会「福祉文化研究」原稿募集中 2020年9月30日締切です。 2021年3月末発行予定